

めました。歴史を変えることになったのは1992年に最高裁判所がEddie Mabo氏に対し、先祖の土地としての返還を認める判決を下したことでした。初めて、原住民の土地所有権が認められたのでした。この裁判に勝つために、マボ氏はその土地に彼の先祖が住んでいたという証拠を提示しなければなりませんでした。

しかし、この20年間の前進にしても、白人に比べてアボリジニの平均寿命は20歳ぐらい若く、子供の死亡率は4倍、失業率は3倍、平均収入は白人の半分、犯罪者と自殺者の割合は5倍です。その上にアボリジニのアルコール中毒による自殺、若者の間に広がっているガソリン蒸気の吸引という問題もあります。白人社会へ同化することは不可能であるかのようです。

二つの文化、二つの文明はあまりにも違いすぎるのです。出会ってから、たった2世紀しかたっていない。例えばArnhem Land地域に住む原住民は、ほんの50年前に初めて白人を見たという人々もいます。彼らはあっという間に、狩猟・採集を主な生活手段から電気製品やIT革命の21世紀の生活に移行したのです。アボリジニの集落を訪ねると原住民社会の激変は明らかになります。オーストラリア連邦政府が彼らのために建てた家がありますが、彼らはみんな野外で暮らしています。彼らに白人たちの法律を理解してもらうことは大変な問題です。たとえば大抵のアボリジニが『ドリーム・タイム』という部族の法に従った生活をしています。一方には、物質主義の白人の世界があり、他方には、精神を重んじる原住民の世界があるのです。

会員の声:

まだはじまったばかりの2003年ですが、スペースシャトル「コロンビア」の事故をはじめとして今年もショッキングなニュースに驚かされる毎日が続いております。

昨年弊社に、ある企業を通して「宇宙科学事業団から」と言うスプリング製作の依頼がありました。そのスプリングがどのような使われ方をするのかはわかりませんでしたが自分も宇宙開発の一翼を担ったようで(かなりオーバーではありますが・・・)宇宙に夢を馳せる子供のように、気持ちが高揚したのを覚えております。

私が製作するスプリングの中には、材質や形状のみの指定でどんな機械の部品で何を生み出す為の物に付く部品なのか、全くわからない場合も多くまた、そんな事を気にする事もなく世に出しておりますが多種多様な「物」に使われる部品であるだけに「不幸」を産み出す「物」には使われて欲しくないと願う他ありません。

坂爪 茂雄

2月25日例会: 卓話 米山忠俊会員

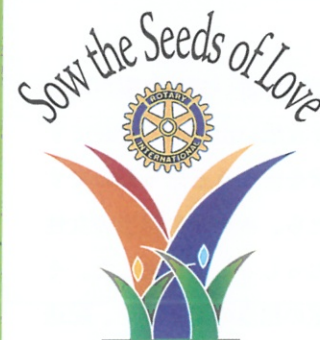
3月4日例会: 新入会員卓話 米山キクエ会員

3月11日例会: 卓話「学校の森をつくる、ホリスティック教育について」
女性のビジネスパートナーつなぎや 代表 堀 昌子様

3月18日例会: 夜例会 三条ロイヤルホテル 18:30点鐘

3月25日例会: 会長エレクト研修報告会

4月1日例会: 「ロータリー雑誌月間」



会長/梨木建夫
幹事/五十嵐 茂
SAA/佐藤弘志

三条北ロータリークラブ週報

慈愛の種を 播きましょう

例会日	2003. 2. 18
累計 No	790
当年 No	31

国際ロータリー会長 ビチャイ・ラタクル 第2560地区ガバナー 佐野 孝
ホームページ <http://www2.next.ne.jp/2560sano/>

例会日/火曜日 12:30~13:30
例会場/三条ロイヤルホテル ☎34-8111 FAX34-8114
事務局/三条市西四日町3-15-34 ヒューマン・ハーバー内
☎35-7160 FAX33-8972

メールアドレス north@sanjo-nrc.org ホームページ <http://www.sanjo-nrc.org>

行事: 「世界理解月間」卓話「オーストラリアの少数民族問題」

外山工業(株) マーク・ドノヴァン (MarkDonovan) 様

出席: 本日の出席 60名中 41名

先々週の出席率 60名中 52名 86.67% (前年同期86.89%)

先週のメイクアップ: 2月5日 三条RCへ 笹原壮玄さん

8日 R財団セミナー(新潟)出席 羽賀一夫さん

13日 東京池袋RCへ 笹原壮玄さん

13日 社会奉仕事業事前視察(裏館小学校) 梨木建夫さん

五十嵐茂さん、佐藤啓策さん、梨木清一さん

本間建雄美さん、西村 護さん、石丸 進さん

ゲスト: 外山工業(株) マーク・ドノヴァン (MarkDonovan) 様

ビジター: 見附RCより 松本武司さん、村上吉雄さん、長谷川紀さん、高野常雄さん

三条RCより 成田秀雄さん、渡辺喜彦さん

三条南RCより 滝口恵介さん

会長挨拶: 梨木 建夫



今日はとても嬉しい事がありましたので皆さんに報告したいと思います。実はなくしていたと思っていた腕時計が宅急便で突然届いたのです。というのは先日福島県へ北クラブゴルフ遠征に行った際に紛失してしまったのですが、参加者の皆さんや、特に同室の今井先生、米山さん、羽賀さんには大変なご迷惑と不快な気持ちを抱かした事を、心からお詫び申し上げます。私の不注意からとはいえ、最近とみに記憶力が薄れてしまい、どこに置いたのか全く解らなくなり、部屋中探したのですが見あたらず半分諦めていたのです。が米山さんのご忠告

があり、帰りにホテルのフロントに紛失届を出すといよいよとおっしゃったので書いてきた事が功を奏して届きました。ありがとうございました。時計自身は安物ですが色々と思い出がある時計ですので、出てきたときには大変感謝ですし、ありがたかったです。早速礼状を書こうと思ったのですが、嬉しくてすぐ電話をし御礼を申し述べさせて頂きました。電話をしたら、ホテルの担当の女性の方が「当たり前のことですので、わざわざ礼の電話など恐縮です」とおっしゃっていました。それを聞いて当たり前のことが当たり前でない世の中に、探して頂いた部屋の担当の方といい、配送の為丁寧に何重にも梱包して下さったフロントの女性といい、まだまだ日本人の古き良き時代の人情味を持った、暖かい人がいるのだなという実感で感激を新たにいたしました。それ以降、人は信用してみるべきだなと深く反省させられ、又一日フンワカと暖かい気持ちで一杯でした。

話は変わりますが、私、最近、男の更年期障害というのでしょうか体調が悪く、体中悪い所だらけで満身創痍の状態です。例えば眼は飛蚊症、耳は難聴、鼻は蓄膿症、歯は虫歯、又永年の持病である腰痛、腰からくる膝痛、足首痛、首痛等々、あげれば枚挙のいとまがありません。又十数年前の内臓の手術以降は汚い話で恐縮ですが、毎日下痢便です。当然頭はアル中かボケかで正気の沙汰ではありません。こんな人間があと4ヶ月チョット会長職を務めると思うと私自身ゾッといたします。が歴代の会長さんの中でも髪が薄くなったとか中には体調を崩されて入院なされた会長さんもいらっしゃいました。のであと4ヶ月チョット、財団、米山の達成と社会奉仕事業の概ねの方針も決定したようですので、皆さんの協力のもとに何とか無事勤めおおせたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

次年度の山本先生にバトンタッチが上手くいく事を願ひまして会長挨拶を終わります。

幹事報告： 五十嵐幹事

- ・見附RCより 20周年記念式典のご案内

日時 2003年4月20日（日）14：00～

会場 ホテルつるや

参加登録されない会員にも記念ベスト（カシミア100%1万円）を販売します。

詳細及び申し込みは事務局までご連絡ください。

- ・にいがた緑の百年物語緑化推進委員会より 会報及び会員カードの送付について

第2回通常総会の開催について

日時 平成15年3月19日（水）13：10～

会場 新潟県民会館小ホール

- ・原ガバナーエレクトより R財団奨学生募集のご案内

2004－05年度奨学生希望者がありましたらご連絡ください

委員会報告： 社会奉仕委員会 今年度の社会奉仕事業として

①いからし工房（知的障害者施設）へ太鼓を寄贈します

（2月25日贈呈式）

②学校の森づくりの普及に役立ててもらうために裏館小学校の

abbit Proof Fence」 日本では「裸足の1500マイル」がまもなく日本で公開・上映されます。ストーリーは「当時の同化政策によって親から引き離され、強制的に施設に入れられたアボリジニの混血の少女姉妹3人が、故郷を目指し1500マイル（約5000km）もの距離を歩いて逃走しました。逃走した3人の追跡は、マスコミまでもが動員される大掛かりなものとなりました。しかし頭のいい最年少のモリーは森を抜け、足跡が残らないように川の中を通ったり、木の枝で足跡を消して追跡をかわしていった。」というものです。ぜひご覧になってください。

1998年にオーストラリア全国に「盗まれた世代」を思い越させるために100人ほどの原住民がオーストラリア北部にあるDarwinの議事堂の前に集まりました。集まった原住民たちはオーストラリア国民にいつになったら自分たちも白人と変わらない人間ということに気づいてもらえるかと訴えました。この集まった日は「謝罪の日（National Sorry Day）」になりました。

「盗まれた世代」の悲劇が明らかになったのは1990年代でした。そして、1997年に、その時の首相、労働党のKeating、が始めた調査による報告書が発表された。1880年代から1960年代にかけて7万人から10万人のアボリジニの子供が母親から引き離されて施設に入れられたことを認めるという内容でした。この報告書はオーストラリア全国に衝撃を与えた。しかし、「盗まれた世代」の原住民は子供時代をもう一度、生きることは絶対にできません。家族や親戚を見付けることはできるかも知れませんが、彼らからの愛を受けないで過ごした数十年間を取り返すことはできません。アボリジニとしての身内意識を再発見することができるかもしれませんが、白人に抑圧された心の傷は消えないと思います。

アボリジニが一番求めているのはオーストラリア連邦政府からの公式な謝罪ということです。しかし、オーストラリアは国としての謝罪は、損害賠償の対象となるため、特別裁判所の設置などが必要ということで、この問題は議論の範囲外となってしまいました。この公式な謝罪がないと盗まれた世代の原住民たちは連邦政府を裁判に訴える事ができません。すなわち、連邦裁判所はもし訴えがあっても連邦政府の公式謝罪が無い限り、政府のアボリジニに対する行動は当時の法律に反したものではなかったという判決を下します。

2年程前に2時間にわたって20万人のアボリジニと白人のデモ行進がシドニーのハーバー・ブリッジでありました。誰もこのような集まりを予想しませんでした。このようなデモ行進又は国連人権委員会からの批判にもかかわらず、ハワード内閣はこの問題についてほとんど動きません。Howard内閣は謝罪には反対しましたが、連邦議会に和解の動議を提出しました。この動議の中でHoward内閣が公式的に発表したのは「オーストラリアの原住民が過去において不当な取り扱いを受けたことに深甚な遺憾の意を表明する。」といったもので、謝罪の言葉ではありませんでした。

しかし、1972年にはWhitlom労働党内閣の登場により象徴的な儀式が行われました。それは「盗まれた世代」の問題でなく、土地の回復を求めるアボリジニの要求に対して、オーストラリア中央部にある砂漠の一握りの土地をアボリジニのリーダーの一人に公的に返還するというものでした。

1980年代の歴代内閣は、特長ある価値と文化をもつアボリジニを民族かつ基本的な権利として認